

# 地理学会ニュース 2022年度 第1号

法政大学地理学会 2022年6月15日発行

## 2022年度例会についてのお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況は収束にはほど遠いものの、ある意味小康状態になりつつあります。それにしたがって、現在の飲食店等の利用については平時に近い形の利用形態となっています。これらの状況を鑑みて、現時点での判断では、今年度の例会は巡検ならびにシンポジウムともに、対面形態で実施することを考えています。

今年度の例会は昨年度と同様に、第1回例会(巡検)を10月に、第2回例会(シンポジウム)を11月あるいは12月に開催する予定です。第1回例会については、交通による地域へのインパクトなど交通を軸とした巡検を計画しています。また、第2回例会については、本土復帰50周年となる沖縄に関するシンポジウムの開催を計画しています。

これらの例会の詳細は次号(9月発行予定)の学会ニュースや本学会のウェブサイト、およびFacebookにて案内します。なお、緊急の連絡はウェブサイトやFacebookでお知らせするだけでなく、学会に登録されたメールアドレス宛にメールをお送りします。ですので、メールアドレスが未登録の方は登録をお願いします。また、登録されたメールアドレスから変更された方も修正の連絡をお願いします。

(集会委員会)

## 法政大学地理学会定期総会

法政大学地理学会定期総会は、2022年5月14日(土)11時30分より、オンライン開催された。山口隆子庶務委員長による開会の辞のあと、議長に塩谷恭正会員、書記に吉原圭佑会員を選出して以下の議題に入った。議題1, 2, 3, 4, 6, 7については、いずれも常任委員会より提出された原

案が承認され、議題5については、一部修正のうえ、承認された。

(出席者27名 委任状50名 計77名により総会成立)

## 議事

### 1. 2021年度事業報告

加藤美雄常任委員長より以下の事業報告について報告があり、承認された。

1) 2021年度定期総会の開催、および2022年度定期総会の開催準備

法政大学地理学会2021年度定期総会は、2021年5月8日(土)ウェブ開催し、常任委員会より提出された原案が承認された。

2) 機関誌『法政地理』54号(2022年3月24日発行)と法政大学地理学会ニュースの発行(年4回発行)

3) 例会について

・2021年度第1回例会(日帰り巡検)の開催

第1回例会(日帰り巡検)は2021年11月14日(日)に、「東京大都市圏郊外地域の現状をみる」とのテーマで開催し、25名が参加した。多摩ニュータウンと立川駅周辺の商業地区、福生市の米軍横田基地周辺の商業地区、羽村市の掘り抜き井戸と玉川上水取水堰を見学した。

・2020年度第2回例会(シンポジウム)の開催

第2回例会(シンポジウム)は2021年12月12日(日)に、「仕事における「地理学」の活かし方」とのテーマで、オンライン開催し、60名が参加した。前半は、村田遼馬氏(横須賀市役所)「地方自治体の仕事と地理学」、持田隼人氏(三菱UFJ信託銀行)「金融・不動産業務における地理学の活かし方」、中村有沙氏(日本気象環境機関)「気象予報・報道における地理学の活かし方」、箕輪龍也氏(パスコ)「「地理学」の知識・能力を活かした提案活動」の4題の講演があり、後半では、

コーディネーターの齋藤圭氏（京都大学）を中心にパネルディスカッションを行った。

#### 4) ホームページの管理・運営

・学会開催のイベントごとにホームページにて情報を発信している。

・ホームページの年度毎の内容更新をしている。

・ニュースレターの内容、「法政地理」誌 53 号までの内容を PDF にて掲載。HP 問い合わせページの管理や Facebook との連携をしている。

#### 5) 会員名簿の管理

2022 年 3 月 31 日現在 会員総数 758 名

名誉会員：6 名

一般会員：263 名（学内院生 25 名を含む）

学生会員：489 名（学部学生 424 名，通教学生など 65 名）

2021 年度入会者 26 名（一般 17 名（院生 5 名含む），学生 9 名）

2021 年度退会者 4 名（一般 4 名（逝去 1 名含む））

2021 年度末除籍者 4 名（一般 4 名）

#### 6) 法政地理バックナンバーの PDF 化

法政地理の 49 号以降はデジタル化されておりオンラインで法政大学図書館から閲覧できるが，1～48 号は紙媒体のままである。近年，多くの機関紙はデジタル化されてインターネットから閲覧可能であるため，法政地理においても利用者の利便性の向上に資するため，48 号以前もデジタル化することについて昨年度の総会で諮り，予算を計上して実施した。作業は庶務，会計が担当し，昨年度は 13～48 号までを印刷業者に依頼して OCR（PDF を文字データに変換）化し，OCR の変換確認と書誌情報の作成を大学院生などがアルバイトで実施した。なお，作業が終了した法政地理のうち，法政大学図書館で登録が終了した 43 号までは閲覧可能である。

#### 7) 「法政大学地理学会創立 70 周年記念論文集」の刊行に関わる事業

・新入会員等に送付

・以下の機関紙等の文献紹介に掲載

地理教育 2021 年 50 号，法政大学文学部同窓会

報 2021 年 40 号，法政地理 54 号，月刊 地理

2022 年 4 月号

#### 8) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業

・2021 年度の地理学研究奨励金の応募は無し

## 2. 2021 年度決算報告

前杵英明会計委員長より以下の決算報告がなされた。

### (1) 一般会計

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
会費等	1,200,000	1,344,000
出版補助金	150,000	150,000
雑収入	50,000	37,506
<u>前年度繰越金</u>	<u>1,161,969</u>	<u>1,161,969</u>
収入合計	2,561,969	2,693,475

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
消耗品費	30,000	7,270
印刷費	1,000,000	962,568
郵送費	170,000	14,056
委員会運営費	100,000	15,385
特別活動援助費	60,000	0
支部活動援助費	10,000	0
アーカイブ費	280,000	342,139
情報化関連費	4,000	3,771
雑支出（予備費）	3,000	2,585
<u>次年度繰越金</u>	<u>904,969</u>	<u>1,345,701</u>
支出合計	2,561,969	2,693,475

### (2) 特別会計（積立金）

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
雑収入	0	55
<u>前年度繰越金</u>	<u>4,560,776</u>	<u>4,560,776</u>
収入合計	4,560,776	4,577,326

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
雑支出	10,000	540
委員会運営費	50,000	0
研究奨励給付金	300,000	0
印刷費	200,000	205,384
<u>次年度繰越金</u>	<u>4,000,776</u>	<u>4,371,402</u>
支出合計	4,560,776	4,577,326

## 3. 2021 年度監査報告

木村成彦監査・小山伸樹監査より「会計は適正に処理されている」とする監査報告があり，上記 2 の決算報告とともに承認された。

#### 4. 法政大学地理学会 学会賞の授与

2011 年度から地理学科との共催で実施してきた法政大学地理学術大会が 2020 年度以降は開催しないことにより、本大会で行なっていた「法政大学地理学会 学会賞」（以下、学会賞とする）は実施していない。そのため、今後の学会賞のあり方について常任委員会において検討した結果、法政地理に論文または研究ノートを投稿した著者のうち会員を対象に「法政大学地理学会 論文賞」として授与することとした。この授与に際しては、本学会副会長を委員長とする授与選考委員会を立ち上げて審査し、2022 年度（法政地理 55 号対象）から実施する。

#### 5. 2022 年度事業計画案

加藤美雄常任委員長より以下の事業計画案が提起され、一部修正のうえ承認された。

1) 2022 年度オンラインによる定期総会の開催、および 2023 年度定期総会の開催準備

2) 機関誌『法政地理』55 号（2023 年 3 月発行）法政地理学会ニュース（4 回発行予定）の刊行

3) 例会の開催  
巡検、シンポジウムの開催

4) 学会ウェブサイトおよび facebook, Twitter の管理・運営など

5) 法政地理バックナンバーの PDF 化

6) 会員名簿の管理

7) 支部活動の援助等

8) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業

9) 法政大学地理学会論文賞の授与準備

10) 選挙管理委員会の設置と評議員選挙

#### 6. 2022 年度予算案

前杵英明会計委員長より以下の予算案が提起され、承認された。

#### (1) 一般会計

【収入】	〈予算〉
会費等	1,200,000
出版補助金	150,000
雑収入	50,000
前年度繰越金	<u>1,345,701</u>
収入合計	2,745,701
【支出】	〈予算〉
消耗品費	60,000
印刷費	1,000,000
郵送費	20,000
委員会運営費	100,000
特別活動援助費	20,000
支部活動援助費	10,000
アーカイブ費	170,000
情報化関連費	4,000
雑支出（予備費）	3,000
次年度繰越金	<u>1,358,701</u>
支出合計	2,745,701

#### (2) 特別会計（積立金）

【収入】	〈予算〉
雑収入	0
前年度繰越金	<u>4,371,402</u>
収入合計	4,371,402
【支出】	〈予算〉
雑支出	10,000
委員会運営費	50,000
研究奨励金給付費	300,000
次年度繰越金	<u>4,011,402</u>
支出合計	4,371,402

#### 7. 名誉会員の推薦

法政大学地理学会 前会長の細田 浩会員、及び法政大学地理学会 前副会長の相原正義会員を名誉会員に推薦する。

---

#### 2022 年度評議員会の記録

2022 年度定期総会に先立ち、2022 年 5 月 14 日（土）10 時より、評議員会がオンライン開催さ

れ、山口隆子庶務委員長の進行で、2022年度総会議事の説明を行った。出席者は、事前委任状提出者が3名、当日の出席者は11名であった。

## 2022年度定期総会時における 会長講演・一般研究発表

2022年5月14日（土）の2022年度定期総会の開催に合わせて、13:30~16:00の時間帯で会長講演と一般研究発表が開催されました。新型コロナウイルスの感染予防の観点から、今年度の定期総会・会長講演・一般研究発表もZoomによるオンライン形式での開催となりました。このオンライン形式での開催に慣れてきたことで、ややマンネリ感が出てきたのか、残念ながら、今年度の参加者は68名と昨年度（103名）よりも少なくなりました。そろそろ対面形式での開催が望まれるとともに、多くの発表者ならびに参加者による、活発な会となることが期待されます。

会長講演・一般研究発表の演者ならびに演題は以下のとおりです。

### <会長講演>

伊藤達也：地理学と環境問題 ―水資源政策を展望する―

### <一般研究発表>（発表順）

海邊健二：森林資源のエネルギー利用の特徴  
―栃木県北地域の熱利用を事例として―  
（座長：佐々木 達）

三浦エリカ：2019年から2021年まで地域住民  
と連携して行った石垣島水質調査結果  
（座長：山口隆子）

宇津川喬子：羽村市史編さん事業と自然地理学  
（座長：山口隆子）

伊藤達也会長による講演は、これまでの同氏の研究の取り組みを現時点で総括する内容であったといっても過言ではないかと思えます。同氏がこれまでに研究対象として、また実践活動として長年にわたり携わってこられた長良川河口堰（三重県）や設楽ダム（愛知県）、川辺川ダム（熊本県）、石木ダム（長崎県）の建設問題を事例に、それらの建設計画の背景や行政（国土交通省、地元自治体）の目的・狙いを明らかにしつつ、それら建設の意義や実際との矛盾について詳述されました。

その上で、これまでの水資源政策についての評価を行うとともに、これからの水資源政策のあり方についての展望が示された内容でした。とりわけ、国土交通省の政策における主張に対して、また、さまざまな立場・観点から総合的に政策を打ち出すことができない縦割り行政に対しては、具体的なデータを基にそれらの問題点を指摘する同氏の講演は、科学の重要性、とりわけ地理学の複眼的かつマルチスケールの視野に基づく実証的な分析の重要性をあらためて示す内容であったかと考えます。一方で、その科学的な事実が反映されない現実を痛切に実感させられる内容でもありました。同氏の切れ味鋭い語り口もあり、1時間ほどの講演があつという間に終わったように感じられたかと思えます。

以上の伊藤氏の講演に対しては、水管理の縦割り行政の問題や既得権益、空間スケールについて、水量に関する人為的影響について、水祈願の伝承や構造物について、年降水量や水量の動向についてなどの幅広い質問が出され、活発な議論が展開されました。なお、同氏の講演の詳細は『法政地理』誌の第55号（2023年3月発行予定）等で公表される予定です。

次に、一般研究発表においては、海邊健二氏の発表では栃木県北地域を対象に、木質バイオマスの熱利用の利用実態やその経済性、普及の要因などについて報告がなされました。また、三浦エリカ氏の発表では、地域住民の協力の下で2019年から実施している石垣島の水質調査について詳述され、水質汚染の実態が報告されました。最後に、宇津川喬子氏の発表では、同氏がこれまでに関わってきた『羽村市史 資料編 自然』の編さん事業について紹介がなされるとともに、具体的な調査事例を踏まえて地理学者が同事業にどのように関わってきたのか報告されました。それぞれの発表は興味深く、示唆に富む内容であることから、一般研究発表でも多くの質疑が出されました。

今回の会長講演ならびに一般研究発表では活発な議論がなされ、参加者は有意義な時間を過ごすことができたかと考えます。その一方で、冒頭で記したように、今年度の参加者は昨年度よりも減少しました。また、一般研究発表のエントリー数も多くない現状にあります。本学会の活動は論文の投稿や学会での発表に限るものではありません。

せんが、これらの活動があつてこそ、学術団体である学会としての存在が成立するものと考えます。したがって、一般研究発表のエントリー数が少なく、会の参加者が少ない現状はやや憂慮すべき状況であるといえます。

一般研究発表では、オリジナルな研究だけでなく、地理教育に関するものや海外調査の紹介、社会的活動の紹介・報告、研究・教育グループの活動紹介、その他地理に関係する報告・紹介などの内容でも発表することが可能です。このように、一般研究発表のハードルは高いものではなく、会員の皆さんが日頃から関心を抱いている地理的な事象について報告することも可能です。繰り返しになりますが、会員による一般研究発表は学会活動の根幹です。是非とも積極的に発表していただけるようお願いいたします。

(集会委員会)

---

### 地理学教室だより

2022年度の法政大学文学部地理学科在校生は、1年生103名、2年生113名、3年生99名、4年生113名となっています。新任の教員スタッフとして、佐々木達准教授(経済地理学、農業地理学)、宇津川喬子助教(自然地理学、堆積学)をお迎えしました。

今年は入学式をはじめとした新年度の行事などは、無事、大学キャンパスにて対面で行われ、授業も対面を基本に開始されました。大規模授業などではオンライン授業も続いておりますが、現地研究も感染症対策を行いながら実施しております。

(地理学科主任 山口隆子)

---

### 地理学教室(通信教育部)だより

ご承知のとおり、法政大学の地理学科通信教育課程は、通信教育で地理学を学べる日本で唯一の存在ですが、このところしばらく、入学者の減少傾向が続いていました。それが2021年から2022年にかけて、入学者は微増に転じ始めました。また2022年からは、高校での地理科目必修化が始まっています。いずれも、地理学にかかわる者にとって喜ばしいことと言えるでしょ

う。

法政大学では、新型コロナのパンデミックで、2020年度から変則的な授業形態を強いられてきましたが、2022年度は対面授業を基本とする方式に戻り、キャンパスにも活気が溢れてきました。通教でも、春秋スクーリングや地方スクーリングが対面で実施されるようになり、今のところコロナ禍以前の状態に復しています。この7月に予定されている夏期スクーリングでも、現地研究だけはまだ、感染拡大防止に注意した前年度と同様の方式を続けなくてははいけません。教室での対面授業は従前のやり方に戻ることになります。前主任の米家先生のご尽力で改訂がなされた「地理学科のしおり」を熟読し、学生生活をぜひ有意義なものとするよう励んでください。

(通信教育課程主任 中俣 均)

---

### 院・地理学専攻だより

法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻では、2021年度に5名が修士課程を修了し、2022年4月に修士課程5名と博士後期課程1名を新たに迎え、国際日本学インスティテュートの5名を加えると11名が新たに加わったことになり、本年度は、修士課程在籍者22(含国際日本学5名)名、博士後期課程在籍者6(含む国際日本学1名)、合計28名の久々の大所帯(過去20年間で最多)となっています。社会人も多く、昼夜開講の利点も活かした夜間開講、サマーセッションやオースタムセッションでの集中講義が増えるなど、カリキュラムの工夫も進んでいます。進路も多様化しており、会員の皆様には、直接・間接でのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

(地理学専攻主任 小寺浩二)

---

### 機関誌「法政地理」第54号(2023年3月発行予定)の原稿募集 編集委員会

2023年3月発行予定の機関誌「法政地理」(第55号)の原稿を募集します。学会員ならば誰でも投稿できます。皆さんからの多くの投稿をお待ちしております。投稿希望者は下記の要領で編集委

員会までご連絡ください。原稿の種類は論説、研究ノート、フォーラム、資料解説、文献紹介です。

1. 投稿希望者は2022年9月1日(木)までに、原稿の種類と予定原稿枚数(400字詰原稿用紙に換算)をメールにて編集委員会までお知らせください。

2. 投稿希望者は2022年10月1日(土)必着で、当学会の投稿規程に則り、原稿を送付してください。法政大学地理学会ホームページからダウンロードした送付状に必要事項を記入し、編集委員会宛の電子メールに原稿および送付状ファイル形式を添付して提出してください。紙媒体(手書きによる原稿を含む)またはその他電子媒体(CD、フラッシュメモリ等)での提出を希望する場合は、事前に編集委員会までご相談ください。

3. 論説、研究ノートについては査読制度があります。その他の原稿につきましても必要に応じて修正を求めることがあります。

編集委員会 メールアドレス

henshu@chiri.info

## 法政大学地理学会「地理学研究奨励金」の授与について

法政地理 54号に掲載されている論文の執筆者に、審査により「地理学研究奨励金」を授与します。6月末までに申し込みを締め切り、その後審査して9月末までに決定して、常任委員会へ報告し、2023年の総会で授与する予定です。

執筆者が氏名、連絡先、卒業・修了年度などを明記の上、下記担当に6月末日までに応募してください。ただし教員との共著論文は応募の対象になりません。

担当：法政大学地理学会副会長 大塚一雄  
問合せ先：kotsuka415@gmail.com

## 会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は2年以上滞納されたら納付の督促を行い、3年以上滞納されたら会誌等の発送を停止して

おります。また滞納期間が5年に達しますと、自動的に除籍する対応を取っております。会員各位におかれましては、住所変更等で学会からの連絡が届かず、結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら、かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また、卒業後、学生会員は一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ホームページより学会メールを利用してお知らせください。

## <<会員動向>>

(2022.3.4~2022.5.31 まで。敬称略、申し込み順)

### 【入会】

・[一般] 佐々木達(東京)、宇津川喬子(東京)、大橋拓未(東京)、松尾宏(千葉)、中村有沙(埼玉)、中村翔馬(埼玉)

・[一般(院生)] 大久保香穂(東京)、吉田哲雄(東京)、品川勇翔(千葉)、初見直樹(茨城)、楊森(東京)、李庚霈(東京)

・[学生] 杉本あずさ(青森)、田中葉子(東京)、岸岡正比古(千葉)、笠松千恵(大阪)、内山裕(新潟)、齋藤浩(千葉)、高橋しおり(千葉)、横更宣頼(広島)、常久大介(東京)

### 【退会】

・[一般] 中路明美、三輪良春

・[一般(院生)] 鈴木海斗、鈴木彩也香、堀内雅生、森田晃司

【除籍】(2022.3/31付、2021年度末除籍)4名(5年滞納)

2022年6月15日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-167442